

達成状況評価書(平成26年度)

部局名:蛋白質研究所

項目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 特になし。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成26年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成26年度は、アルツハイマー病の原因物質を捕捉して分解する受容体の原子構造の決定や、DNA修復機構による新たな発がんメカニズムの発見、網膜における神経シナプス形成機構から動物視力低下の機構の解明など、「生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究」プロジェクトにおいて、大きな成果を多数輩出し、これらの成果をプレス発表するなど積極的に社会へ公開し、複数のメディアで取り上げられるなど、積極的に取り組んでいる。</p> <p>さらに、共同研究により人工光合成への道筋を開く光合成の鍵となる蛋白質複合体の構造を決定するとともに、NMR(核磁気共鳴)検出信号の増幅に資する装置である極低温ヘリウムガス循環装置を開発し、蛋白質相互作用の原子分解能での解析に資する感度(約10倍の固体NMR感度)上昇を世界で初めて実証しているほか、細胞増殖や分化、運動、極性など多彩な細胞応答を制御する蛋白質であるWhit蛋白質の機能発現に重要な新規化学構造を決定するなど、成果が上がっている。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
3. その他 (大学の年度計画: 11~17)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	<p>【年度計画の達成状況】 平成26年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成26年度は、国際共同研究を組織としての研究ネットワークとするために、蛋白質科学を積極的に進めているアジア・オセアニアの5つの大学・研究所(韓国・ソウル大学校薬学部; 中国・北京大学蛋白質科学センター; 中国・国立蛋白質科学センター上海; インドネシア・アイルランガ大学; オーストラリア国立大学自然科学・数理学部)と、個々に学术交流協定を締結するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 18~30)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成26年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 特になし。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>

達成状況評価書(平成26年度)

項目	コメント
5. 全体の項目に関する達成状況	<p>【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。</p> <p>【特記事項】 平成26年度は、「生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究」プロジェクトによる成果の輩出、アジア・オセアニアの5つの大学・研究所との学術交流協定締結など、積極的に取り組んでいる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>